

■ 学年末考査に向けて



3月6日(月)から3月8日(水)まで学年末考査が実施されます。今年度最後の定期考査です。悔いの残らぬよう、先日、2年生のあるクラスの「総合的な学習の時間」で、担任から「次年度に向け、今年度の3年生の話で特に知らせておくべきことを話してほしい」と言われて話す機会がありました。定期考査の重要性についても話し、質問や感想などから理解してもらえたものと感じております。しっかり準備をして、3年生になって進路活動を始めるときに後悔しなくて済むように、がんばってほしいものです。

■ 2年生保護者対象進路活動説明会について

高校2年生の保護者皆様にはBLENDでお伝えしましたが、3月14日(火)の18時より本校聖賢堂にて、「保護者対象進路活動説明会」を開催いたします。万障お繰り合わせのうえ、ご出席いただければ幸いです。予めご質問がある場合には、BLENDのアンケートにご記入ください。当日、不参加でも後日動画を配信予定ですので、期間内にご視聴くださいますようお願いいたします。

■ 大学入学共通テストの平均点

新聞等を見た人もいるかと思いますが、下記は大学入試センターで2月6日(月)に発表した大学入学共通テストの最終集計です。数学の「簿記・会計」等、一部省略していますが、参考にしてください。なお、世界史A、政治・経済、生物、物理基礎の4科目は前身の大学入試センター試験を通じて過去最低となったとのことです。理科の専門科目は得点調整後の平均点です(カッコ内の数字は配点)。

科目名	国語(200)	世界史A(100)	世界史B(100)	日本史A(100)	日本史B(100)
平均点	105.74	36.32	58.43	45.38	59.75
科目名	地理A(100)	地理B(100)	現代社会(100)	倫理(100)	政治・経済(100)
平均点	55.19	60.46	59.46	59.02	50.96
科目名	倫理・政経(100)	数学Ⅰ(100)	数学Ⅰ・A(100)	数学Ⅱ(100)	数学Ⅱ・B(100)
平均点	60.59	37.84	55.65	37.65	61.48
科目名	物理基礎(50)	化学基礎(50)	生物基礎(50)	地学基礎(50)	物理(100)
平均点	28.19	29.42	24.66	35.05	63.39
科目名	化学(100)	生物(100)	地学(100)	英語(リーディング)(100)	英語(リスニング)(100)
平均点	54.01	48.46	49.85	53.81	62.35

■ 3年生の合格体験記

3年生の合格体験記です。今回は医療創生大学に合格した高木大空君、東北芸術工科大学に合格した関本咲希さん、株式会社 IHI 相馬事業所に内定した前田陸君です。

【合格体験記】 高木大空君（3年2組）
医療創生大学健康医療科学部作業療法学科（指定校推薦）

私には中学生の頃から「作業療法士になる」という夢がありました。そこで、地元で作業療法士の資格が取れる大学はないかと考えていた時に、健康医療科学部作業療法学科のある医療創生大学を見つけ、合格するために高校生活を過ごしてきました。

まず、高校生活を送るうえで意識していたことがあります。それは、生活習慣の見直しと敬語の使い方です。もちろん、勉強も大切ですが、規則正しい生活を送ることが一番大切だと感じました。早く寝て、早く起きることで、授業に集中することができ、体調管理もできたと感じています。



次に敬語の使い方ですが、私は本番になると緊張する性格なので、日常生活から目上の人や先生方に対して正しい敬語が使えているか意識していました。先生方から「その敬語の使い方は間違えているよ」と指摘していただくこともあり、そこで間違いに気づくこともありました。会話していて「今の敬語の使い方は正解か間違えているか」を自問自答することが、本番で緊張しないコツなのではないかと思いました。このように、日常生活での意識によって、本番では緊張することなく堂々と自分の意見・考えを話すことができました。

受験で何より力になったのは先生方のサポートです。面接練習では、改善点を具体的に教えていただき、より良いものに上げることができました。あくまで、生徒を主体として話を進めてくれるので、「この部分はこうしろ」と押し付ける形ではなく、「この部分はこうした方がもっと良くなる」と生徒の意見を軸にして先生方が手助けをするという形なので、面接練習が辛いと感じることはありませんでした。

私が合格することができたのは、日頃の生活習慣、敬語の使い方の見直しと先生方や家族のサポートがあったからだと思います。それらの周りの人たちに感謝しながら、大学生活を充実させたいと思います。後輩の皆さんもぜひ参考にして頑張ってください。

【合格体験記】 関本咲希さん（3年4組）
東北芸術工科大学芸術学部文芸学科（総合型）

私は高校2年生の冬頃に第1志望校を東北芸術工科大学の芸術学部文芸学科に決めました。初めてこの大学の存在を知ったのは2年生の夏ですが、その時は志望校の一つとしてしか認識しておらず、他にも様々な大学のパンフレットを取り寄せて情報収集に励みました。東北芸術工科大学のオープンキャンパスにも積極的に参加し、卒業生の話の聴いたり、総合型選抜入試専願体験型がどのようにして行われるのかを確認したりするなど、入試準備の時に役立てました。



3年生の夏には東北芸術工科大学のみならず、尚絅学院大学と高知大学にも訪れました。私は大学では文学について学びたいと考えていましたが、心理学にも興味を持っていたので、尚絅学院大学では心理・教育学群を、高知大学では人文社会科学部をそれぞれ見学し、心理学を選択すればそれをどのように学ぶのかを理解しました。自分の進みたい道が複数あると思った場合は、それについて特化した大学のオープンキャンパスに参加し、自分が本当に学びたいと思ったことを見極めることが重要です。

さて、受験生はよく「夏休みが勝負」と言われますが、実際その通りで、夏休み中にいかに勉強したかでその後の展開を大きく左右すると思います。私は総合型選抜で受験すると決めていたので、志望理由書と面接ノートの作成、面接練習に重きを置きましたが、受験に落ちた時のことも考えて一般入試のための勉強もしました。しかし、私の入試対策もおよそ万全とは言いがたいものでした。志望理由書と面接ノートの作成に時間がかかったこと、それらを何度も書き直したことによって面接練習の時間がどんどん短くなっていきました。最終的に不安を残したまま本番に臨み、大変焦った経験があるので、総合型選抜入試や指定校推薦を考えている人は、早め早めの対策を心掛けた方が後々苦勞しなくて済みます。

【合格体験記】 前田陸君（3年6組）
株式会社 IHI 相馬事業所内定

私は株式会社 IHI 相馬事業所から内定をいただき、4月からその一員として働くことが決まりました。この会社を受験しようと思ったきっかけとして、私は小学6年生の時に野球で福島県の選抜チームに選ばれ、台湾遠征に飛行機で行き、初めての飛行機にとっても感動し、IHIが飛行機のエンジンの部品をメインに製造しており、私も飛行機に携わる仕事をしたいと思ったからです。IHIを受験するにあたって、面接練習、資料作成など、先生方や仲間の支えがあったからこそスムーズに進められ、内定をいただきました。



最後に、IHIは地元の会社ということと昔から名のある伝統企業だと思いません。IHIの発展に貢献できるよう一生懸命仕事に励んでいきたいと思えます。

■箱根駅伝あれこれ

お正月恒例の箱根駅伝。今年も1月2日（月）～3日（火）に開催されました。首都圏の多くの有名大学が参加することもあり、箱根駅伝の話題は本紙でもよく取り上げています。今年には、「青山学院大学の2連覇成るか?」、「駒澤大学の3冠王は?」などが焦点だったほか、55年ぶりに立教大学が出場したことも話題になりました。



結果はみなさん知っているのではないかと思います。駒澤大学が往路、復路ともに制し完全優勝を果たしました。エースの田澤廉選手が12月にコロナに感染して1週間以上走れなかったり、他の主力選手2名が体調不良で当日変更になったりするなどアクシデントはあったようですが、昨年の4月に4年生から大八木弘明監督に「大学駅伝の3冠を取りたい!」と話があり、監督もその気になって取り組んできたそうです。夏合宿で主力の4年生に大八木監督から「今シーズンで監督を退任する」との話があったからは士気が一層高まり、10月の出雲駅伝から盤石の形で公言通りの「大学駅伝3冠王」を達成しました。箱根駅伝では特に山の上下り区間の5区、6区での1年生の活躍が光りましたし、出場選手全員が区間5位以内と総合力で勝ち取った優勝でした。

注目されていた駒澤大学と青山学院大学の間で割って入ったのが中央大学でした。中央大学は6連覇を含む大会最多の14回の総合優勝を誇る名門でしたが、近年はシード落ちすることもあるなど、大学としては危機的な状況にありました。出場回数も最多（95回）の中央大学は、次年度の第100回目の記念大会に向けて藤原正和監督のもと、着々と準備を進め、今回はエースで2区区間賞の吉居大和選手を中心に往路優勝を目指していました。あと一歩のところまで優勝を逃したものの、総合2位と目標の第100回大会での活躍が期待される結果を残しました。新4年生だけでなく下級生にも有望選手がいることから第100回大会では中央大学旋風が吹き荒れそうです。

青山学院大学は5区、6区に出場予定の選手の調整が間に合わず、それぞれの区間で出場予定のなかった選手が出走したという事情もあり、一時は8位にまで落ちた区間もありましたが、最終的には総合3位と地力があるところを見せました。次年度、やはり第100回大会に向けて照準を定め、今大会のリベンジに向け調整してくるものと思われます。

明治大学は区間賞を2区間で獲得しながら12位とシード落ちしました。早稲田大学は5位と頑張りましたが、かつては優勝経験も多い大学です。この両校は第1回目から出場している大学であり、次年度の第100回大会に対する思い入れは中央大学などと同様、強いものがあるのかもしれませんが（※第1回目の箱根駅伝に出場したのは現在の筑波大学、明治大学、早稲田大学、慶應義塾大学の4校）。やはり、次年度の注目校になっていくでしょう。

先にも記した55年ぶりに出場した立教大学は、繰り上げスタートがなく襷が1本でつながり、総合18位でした。練習では、選手よりもかつて箱根駅伝で活躍した上野裕一郎監督が一番速いなどと話題になりましたが、この経験を活かして、次年度以降、常連校になっていくことが期待されます。

繰り返しになりますが、来年、箱根駅伝は第100回目の記念大会になります。門戸を全国に開いての開催になるそうですが、どのような熱戦が繰り広げられるか、今から楽しみです。3年生のみなさんが進学予定の大学、1・2年生のみなさんの志望校はいかに？

文責：清水聖（進路指導主事）